平成23年度職員表彰（改善改革部門）審査結果 （大賞）

（3件）

賞	件名	表彰者	概要	◎審議委員講評／〇職員メッセージ	
大賞	保育所入所申込時の住民票添付を削減！	各区 子育て支援課 こども未来局 保育課	保育所入所申し込みの際，住民票の添付を義務付けていたが，各区子育て支援課に導入されているライフパートナー（保健福祉総合システム）端末の画面上で住基台帳が確認できることから、平成23 年度（4/1以降入所申請受付分）より，原則住民票の添付を不要とした。	◎これを契機に，区役所主導での改善が増えることを期待。 ◎"外側からの視点"で，他の業務に拡大していくことを期待。 〇市民，職員ともに負担軽減になり，最たる改善。 〇ただでさえ忙しい親の労力削減は，まさしく子育て支援！	
	朝食メニュー「アサのチカラ」を共同開発	南区 健康課 （南区食育推進連絡部会事務局）	南区食育推進連絡部会（事務局：南区保健福祉センター健康課）では、平成22年度より3ヶ年計画で、若者期への食育推進を強化する取り組みを進めている。 計画2年目にあたる今年度は、その取り組みの一環として、南区大学連絡会議学生メンバー9名、ミニストップ（株）との共働で、若者期の食育推進ワーキングを実施し、若者が食べたくなる新しい朝食メニュー「アサのチカラ」（おにぎりとパン）を開発した。 また、若者へ「食べよう、朝ごはん」の食育メッセージを伝える取り組みを行った。	◎地域づくりに企業，しかも市民に身近なコンビニを巻き込んだ点がすばらしい。 ◎多様な連携がいろいろなものを生み出すという好例。 〇アイデアと実行力に感服しました。 〇企業との共働のメニュー開発など行政の枠を超える取組みが，すごい。	
	セカンドライフ応援パンフレット『シニアのための智恵袋』を作りました	早良区「シニアのための智恵袋事業」プロジェクトチーム	定年を控えたシニア世代（50代後半～60代前半）向けに、定年後に必要な手続きや、生きがいづくり・健康づくり・再就職などの情報をぎゅぎゅっと一冊にまとめたパンフレットを作成。平成22年12月から、早良区役所、早良保健所、入部出張所、早良市民センター、情報プラザ（本庁1階）で、好評配布中。 また、このパンフレットを使った講座や講演会を実施した。	◎現場力の賜物。顧客の視点にこだわったことがよかった。 ◎市民ニーズの変化をキャッチするセンス，それに的確に対応した力のお手本。 ◎分かりやすくて読むのに疲れない。 〇定年を迎える年代の不安解消に大変良い取組み。 〇縦割り行政を打破する極めてチャレンジングなすばらしい取組み。	職員投票特別賞

平成23年度職員表彰（改善改革部門）審査結果 （優秀賞）

（12件）

賞	件名	表彰者	概要	◎審議委員講評／〇職員メッセージ	
優秀賞	福岡市「浸水ハザード」・「防災」マップの作成	市民局 防災・危機管理課 道路下水道局 計画調整課 道路下水道局 下水道計画課 道路下水道局 河川計画課	福岡市は，これまで，福岡県が公表した「河川からの浸水想定区域（外水被害）」をもとに，6河川の「洪水ハザードマップ」作成・配布してきたが，わかりにくかったため，今回，河川のはん濫（外水被害）と下水道や側溝などからの浸水被害（内水被害）を重ねて表示することにより，内水被害を含めた浸水への注意と日ごろからの備えを，市民へわかりやすく呼びかけられるように改善した。 また，「防災マップ」と一体化し，風水害・地震対策もあわせ，使いやすさ・わかりさすさを追求した。さらに，浸水被害があった地域等の現地調査や丁寧な聴取り調査を行うとともに，地形の高低差が視覚的にわかる工夫もほどこした。これは，福岡市で初めての取り組みであり，多くの市民が待ち望んでいたものである。 平成23年6月から市内全世帯に配付するなどして，147万市民の防災意識の向上に努めた。	◎以前のマップと比べて，見やすく，楽しめるものになっている。 ◎地域住民の巻き込みのプロセスなどにも工夫がされていた。 ◎精度の高さを自信にして市民に広げていって欲しい。 〇旧体制では公表しづらい内容を勇気を持って公表したことに驚きと敬意を表したい。 〇市民への情報提供のツールとして画期的な地図。	職員投票特別賞
	地域みんなで防災力向上事業	市民局防災・危機管理課	博多あん・あんリーダー会 との共働により、小・中学生を対象にしたジュニア防災士養成講座や、学校や公民館等の避難所運営の模擬体験ゲームの実施、地域のニーズに合った新たな出前講座プログラムの研究開発を行っている。 共働することで、従来は難しかった地域のニーズにマッチした講座や演習を中心とした講座、子ども向けのワークショップ、災害図上訓練等、対象や地域に応じたさまざまなプログラムの開催が可能となり、参加された小・中学生や大人からも「役に立った、今後も続けて欲しい」等の高い評価を得ており、市民の防災意識の向上に役立っている。	◎行政のやるべきことと地域でやるべきことが明確で，共働の好事例。 〇積極的な取組みが評価できる。 〇防災意識の高揚につながることから，今後もさらに進化発展させていただきたい。	
	はじめての芸術との出会い事業	市民局 文化振興課	（特活）子ども文化コミュニティ との共働により、文化芸術に親しむ機会が少ない乳幼児に芸術体験の機会を提供し、子どもの文化振興・文化環境の向上を図ることを目的に、乳幼児親子を対象にした舞台芸術公演や体験型ワークショップの実施、地元アーティストの養成、乳幼児向けの芸術体験プログラムの開発等を行っている。 共働することで、双方のネットワークや信用力を生かし、公民館や公共ホールでの公演や、他団体や大学の協力が得られ、事業を効果的に進めることができ、参加者からも高い評価を得ることができた。	◎感性やコミュニケーション力豊かな人を増やす，すばらしい取組み。 ◎地域に埋もれたすぐれた人材の発掘にもつながった。 ◎体験の場の多様性を欠かさない人材の育成に期待。 〇すべてのこどもたちに届けることができるような仕組みを共働で考えていけるよう期待。	
	口座振替済通知書の希望者のみへの送付	財政局納税企画課 各区納税課・市民税課・固定資産税課	これまで，市税を口座振替で納付されている方に対して，口座振替済通知書を送付するにあたっては，原則全員に送付し，不要な方には送付しない方法をとっていたが，発想を転換し，原則送付せず，希望者のみに送付する方法に変更したところ，役務費12,630千円，印刷消耗品費1,839千円，合計約14,500千円の経費が削減できた。	◎新規性はないが，効果は大きい。 〇まさに発想の転換が生んだ事務改善の典型例。 〇経費節減の意識が高く評価される。	

平成23年度職員表彰（改善改革部門）審査結果 （優秀賞）

賞	件名	表彰者	概要	◎審議委員講評／○職員メッセージ
優秀賞	学生プレーワーカー	こども未来局 こども育成課	福岡プレーパークの会との共働により、放課後等の遊び場づくり事業において、遊びの場を魅力的にする大学生プレーワーカーの人材育成を実施し、その大学生とプロジェクトチームを「放課後等の遊び場づくり事業」実施校に派遣したり、保護者や地域の人達との連携を密にし、啓発講座等を行っている。 共働することで、子ども達の遊びの活性化が図られ、保護者の積極的な関わりも生まれた。遊びの場を支える人材の育成にもつながり、「放課後等の遊び場づくり事業」実施校での子ども主体の自由な遊び場づくりの推進に役立っている。	◎こども対象の事業でも，大人や学生のあり方を見直す機会になる。 ◎世代をつなぎ，感性を育む場として期待。 ◎学生の育成という面も評価できる。 ○こういった改革が，児童虐待や孤独死などの防止になることを期待。 ○こどもの健全育成，学生の人材育成，保護者・地域の連携促進など様々な高価が見込める。
	技術的改善による売電収入の向上	環境局 臨海工場	1.地元対策として設置している白煙防止装置を地元の理解を得て停止することにより蒸気タービン発電機に送る蒸気を増加させると共に電気使用量も削減した。 2.ごみ減量下の低負荷運転にあった蒸気タービン発電機の運転を行うことより発電効率をアップさせた。 3.スートブロー始動時の蒸気使用量を減少させ，蒸気タービン発電量を安定させた。 この結果，平成２１年度に比べ平成２２年度はごみ焼却量が2％の増加だったが，売電収入は20％（8千万円）増の4億6千万円の売電収入を得ることができた。	◎まじめに取り組んで得られた成果。金額のインパクト（費用対効果）は大きい。 ◎地域住民とのしっかりとした対話が功を奏している。 ◎小さな改善が大きな成果を生んだ好事例。 ○果敢に挑戦し数字として億単位の成果を上げたことは最も評価されるべき。 ○地元調整とその技術に感動。
	屋外広告物について，新たな手法を用いた実態調査	住宅都市局 都市景観室	当該事業は、福岡県緊急雇用創出事業臨時特例基金事業補助金（補助率10/10）を活用し、新たな調査手法により平成22年度に本市の主要な幹線道路1,510km、平成23年度に1,200kmの屋外広告物の実態調査を行い，大都市クラスでは全国で初めて屋外広告物の実態が把握できた。 また、現況調査過程でほぼ全市の都市景観の画像情報収集しており屋外広告物のみならず様々な活用が可能となっている。 また、補助金の目的である雇用創出においても、１００名を超す失業者の新規雇用を行っている。本事業に従事した新規雇用者は、CAD作業（画像のパソコン操作）のスキルを習得することができている。	◎問題を放ったらかしにせず，真剣に取り組んだことがすばらしい。 ◎市のGIS資源，緊急雇用の資金，民間業者の技術をうまく組み合わせている。 ◎デジタルとアナログの融合という，着眼点がおもしろい。 ◎他の分野への広がりにも期待。 ○あるべき姿にしていこうという意気込みがすばらしい。 ○雇用創出ととも新規雇用者の技術取得を行っている点が良い。
	Facebook&Twitterで「博多の魅力」情報発信と共有！	博多区 地域振興課	ソーシャルメディアFacebookとTwitterを用い、地域行事や地域活性化の取り組みなどの情報を発信するとともに、Facebookのコミュニケーション機能を活用し、住む人、働く人、訪れる人が、博多の情報を共有することにより、「博多」の一層のブランド化、地域の一体感に寄与している。 Facebookの汎用的なフォーマット及びソフト等を使い、経費をかけず情報発信・情報共有ができるため、チラシでの情報コーナーへの配架や不特定多数への配布に比べ告知効果が高い。	◎やれるところから取り組んだチャレンジ精神がよい。 ◎市役所内では初めての試みであり，評価できる。 ◎撮影に市民を巻き込んでいる。 ◎単なる情報発信ではなく「好きになってもらう」「来てもらう」等の目的が明確。 ○コストをかけずに成果を挙げている点がすばらしい。 ○先駆性とスピード感に脱帽。
	城南区ホームページを活用した城西中第2グラウンド市民活動広場申込システムの開発	木原章（城南区地域支援課）	抽選で利用を許可している城西中第2グラウンドの利用希望者が、抽選申込のために毎月最低１回の来庁と、当選結果を確認するために最低１回の来庁もしくは電話をする煩わしさを、既存の城南区ホームページを活用することで軽減し、市民サービスを向上させた。 また、窓口や電話応対する職員を減らすことができ、事務量の軽減に繋がった。（毎月約40件の応募）	◎市民サービス向上になっている。 ○区職員にとっても市民にとっても大変有益な取組み。
	西区役所壁面広告で、庁舎案内看板＋110万円の収入確保	西区総務課	西区役所庁舎入り口付近に民間広告入りの周辺の案内地図を掲示することにより、訪れた市民に対して周辺の案内地図情報を提供するとともに、広告収入の新たな財源確保を図った。	◎地図もあわせて作成した点が評価できる。 ○仕事の延長での改善というより，違った角度を取り入れた取組み。
	地下鉄駅係員用新「勤務管理システム」の構築	坂本憲磨（交通局乗客サービス課）	平成23年９月末まで使用していた，駅係員全体の勤務表等を作成する「勤務管理システム」は，配置人員等の変更に対応できず，修正等に時間を要していたため，職員が独力で事務量軽減を目的として新たに新「勤務管理システム」を構築したもの。 また，システム構築と合わせて，「取扱説明書」を作成し，職員の異動等があっても対応できるようにしたため，保守点検およびシステム改修にかかっていた費用が必要なくなった。	◎費用もかからず，職員の事務効率アップにつながっている。今後の経費も削減できている。 ○取扱説明書を作って研修した点を評価。 ○市職員の能力の高さとやる気を証明していただき，誇らしい気持ちになった。
	中学校給食の食べ残しを減らす取り組み	教育委員会 学校給食センター 教育委員会 健康教育課 教育委員会 中学校	従来より中学校（65校）給食の食べ残しが多いことが、議会などでも取り上げられ問題視されていた。そこで、まず食べ残す理由について生徒にアンケート調査を実施し、そこで浮かび上がった3つの問題点について改善する取り組みを行った結果、過去１０年間横ばいだった「食べ残し」が大幅に減少した。	◎生徒たちとの共働事業。食に対する多様な考え方がある中でリーダーシップを発揮。 ◎先生たちのチームワークがすばらしい。 ◎こどもをほめて大人がほめられる循環。 ○問題点を洗い出し，最適化を図っていくプロセスがすばらしい。 ○もったいない精神，エコ精神が向上し，教育的高価も高い。

平成23年度職員表彰（改善改革部門）審査結果 （がんばったで賞）

（14件）

賞	件名	表彰者	概要	◎審議委員講評／○職員メッセージ
がんばったで賞（職員投票特別賞）	椅子の単価見直しで470 万円削減！	会計室会計管理課 武田久治（西区保険年金課）	会計管理課では平成22年度から価格低減の検討を進めていたが，一方で職員から用品の単価が高いことに対する改善提案があり，平成23年度から椅子の銘柄の選定を見直し，1脚あたり7～8千円の単価の軽減を図った。 肘付き・肘なし合わせて年間600脚前後の購入が見込まれるため，総額で年470万円程度の削減が見込める。	○用品は単価が決まっているという固定観念を捨て，経費節減に取り組んだ姿勢がすばらしい。 ○できることから少しずつ見直して，他の施策に少しでも予算をまわせるといいですね。
	こどもも楽しいホームページ	市長室広報課 中島茂（地方独立行政法人福岡市立病院機構）	本市の将来を担うこどもたちに，丁寧にわかりやすく情報を提供するため，福岡市のホームページに，こどもが容易に理解することができる「こども向けページ」を作成することが提案された。 そこで，早速，広報課にて，各所属が作成しているキッズページを1つに集約した「キッズコーナー」を作成し，市ホームページのトップに入口（バナー）を設置し，こどもたちが福岡市の情報を見つけやすくなった。	○単純なようでいて意外と手をつけられないことをきちんと実施した。 ○こどもに少しでも行政に興味を持ってもらうことは，非常に大切。
	目に優しい「文字拡大ソフト拡大鏡」を，「FRENS（住民情報オンライン）」「戸籍システム」「住基ネット」に導入！	総務企画局職員研修センター・情報システム課 市民局区政課 南区市民課	視覚の障がいにより，市民課業務系端末の操作に支障が生じている職員について。関係3部門が連携して支援。 セキュリティを考慮し，業務に必要なソフト以外は入れてはいなかった業務系システムに対し，Windowsの標準ソフトである文字拡大ソフト「拡大鏡」の導入を実現。他の職員にとっても，業務環境の向上が図られ，今後，他の業務端末への普及が見込まれる。	○市民に優しく接するためには，内部から改革していくことが大切。 ○視覚障がい者だけでなく，パソコンの文字がみづらい職員も利用できる。
	総務事務センターの設置	総務企画局人事課	任命権者ごとに行っていた給与関係事務を人事課に集約し，ルールの統一化等を図り，その中で必ずしも職員が行わなくてもいい業務処理について，アウトソーシングを行った。 アウトソーシングすることで，民間企業での専門的な知識，ノウハウ，スケールメリット，業務運営の柔軟性，創造工夫を利活用することにより，行政運営に係る間接的なコストを削減し，財源及び人的資源配分を最適化し，行政運営における内部執行体制のスリム化を図ることができる。	○時間とお金が軽減され，まさしく，改善・改革。 ○給与関係事務は，任命権者ごとに行うことが基本という固定観念を超えた発想に感服。
	嘱託員の名簿ができました	総務企画局人事課	職員からの提案に基づき，平成23年度から，嘱託員名簿（平成23年5月1日現在）を全庁OAのFINEに掲載した。	○こうだったらいいのにと多くの人が思っていることを実現したのが他に見本になる。 ○きちんと形にしてもらえたことに感謝。
	市民も職員もお客様！証明書の公用請求が便利になりました	各区市民課 市民局区政課 塩地貞夫（早良区地域保健福祉課主査）	公用請求による戸籍謄本等の請求について，これまでは本籍等がある区でしか受け付けていなかったものを，職員からの提案に基づき，非本籍，非住居区であっても受け付けるように改善した。	○ルーティン業務となってしまつて気付かない行程を見直してスリム化することに成功した事例。 ○時間の節約になり利便性が向上。
	コクホしっとくキャンペーン（ハイリー・コクホの国保制度紹介）	保健福祉局国民健康保険課・医療年金課	市民の方に国保制度へ関心をもってもらうため、「ハイリー・コクホ」というみんなが親しめる愛嬌あるキャラクターによる国保制度を紹介する映像、リーフレットを作成。 10月に保健福祉局が行う健康づくり月間でのイベントで、リーフレットの配布と伴に映像を流し、市民の方への周知を図った。また、天神周辺の街頭ビジョンやフクオカチャンネル（福岡市の情報を動画で発信するサイト）で国保制度紹介映像を放映するとともに、各区で行われる健康づくりイベントや福岡シティウォークでもリーフレットを配布し、国保制度の周知を行った。今後も、各区の健康増進イベントなど関連部局と連携し、国保制度の周知に努める。	○ポイントをしぼり，キャラクターを使って，視覚的に目が行きやすいよう工夫がなされている。 ○マンガと映像のコラボというこれまでになかった手法が斬新でアイデアがすばらしい。
	特養利用申込者在宅介護サポート事業	保健福祉局高齢者施策推進課	（特活）緩和ケア支援センターコミュニティ との共働により、特別養護老人ホーム利用申込者やその家族が求めているニーズやその状況を把握し、既存の介護サービスと連携を図りながら、散歩やお出かけの外出援助、話し相手、趣味のお手伝いなどの支援を行っている。 共働することで、NPOの専門性やネットワークを生かし、ケアマネージャーとも連携しながら、必要な支援に取り組むことができた。	○今後増えて行くであろう在宅介護の負担軽減になる。 ○今後ますます重要な施策をいち早く行っている。
	地域ねこ守り隊事業	保健福祉局生活衛生課	（特活）地元再生機構 との共働により、飼い主のいない猫を、一定のルールに従い地域で一代限り飼育する「地域猫制度」として、モデル地区の組織づくりを実施し、町内会への説明や、小・中学校で人や動物を大切にする心の啓発活動等を行っている。 共働することで、NPOの地元とのつながりと、行政の専門的知識や情報を織り交ぜ、スムーズに町内会や地元活動者、他の動物関係団体の理解と協力を得ることが可能となった。	○住みよいまちづくりに貢献している。 ○地域課題は，地域で解決するという原則でそれを行政が補完するという仕組みがより強く出ていて，今後の地域課題解決のひとつの道標となることを期待。

平成23年度職員表彰（改善改革部門）審査結果 （がんばったで賞）

賞	件名	表彰者	概要	◎審議委員講評／○職員メッセージ
がんばったで賞	障がい者アートプロジェクト	保健福祉局障がい者施設支援課	（特活）まるとの共働により、福祉施設スタッフ等を対象に、アート活動の可能性を考える講義をはじめ、アートを仕事に展開するノウハウなどを学ぶ「アートサポーター養成講座」や、アート作品の展示・レンタル・販売などの事業を行っている。 共働することで、障がい者アートの先駆者を招き、他都市の先進事例を直接聞く機会をつくることができた。（２４年１月実施予定）また企業や他団体、学生ボランティア等の協力により、商業施設や病院等での障がい者アートの展示・販売、レンタル事業への展開に向けた取り組みをスタートすることができた。	○障がい者アートという新しい分野へのチャレンジを評価。 ○誰もがいきいきと暮らせる世の中になるために，この取組みは応援したい。
	試験検査体制を維持しながら省エネに取り組もう！	環境局保健環境研究所	省エネの推進が極めて重要となっている中，試験検査業務の改善というソフト面の改善により，試験検査体制を維持したまま大きく省エネすることに成功した。 具体的には，分析機器の消費電力をリストアップ，使用時間の調査等，現状を把握し，不使用時の電源OFF設定等の取り組みを確実に実行した。また，分析の短時間化・温度設定の低温度化等，分析条件の見直しを行った。	○今までごく普通にやってきたことをもう一度洗い直し，無駄を省いた点がすばらしい。 ○継続してがんばって頂きたい。
	大学・地域と共働した砂像制作による地域振興と市のPR	東区ワーキンググループ 「笑顔にカンパイ」	勤務時間外にボランティアとして，１０月１５日・１６日開催の志賀島金印まつりにあわせ，市長をテーマにした砂像を含む砂像制作に地域や大学と共働で取組み，これを完成させた。 完成した砂像はNHK全国ニュースなど各種メディアに取上げら，志賀島に市内外から多くの観光客が訪れるなど，地域振興に大きく貢献したことはもとより，市のPRにも貢献した。	○大学との共働により，区の観光PRを行うことはおもしろい。 ○地域振興のために，休日を返上してボランティアで取り組んでおり，他の職員の模範となる。
	職員手作りの暑さ対策『クールストールの活用！！』（暑さなんか南の園（なんのその））	真名子弘美（南区健康課）	夏場の執務室の暑さ対策として、家庭にある保冷剤を利用し、首筋（襟元）に巻いて使用する「クールストール」を発案・製作し、課内職員に配付することにより、猛暑にもかかわらず快適な職場環境づくりに努め、また、省エネ対策（冷房運転時間短縮等）にも結びつけた、今後も広範囲の職場で活かせる画期的な取り組みである。	○お金をかけず快適にという姿勢と，手作り感が良い。 ○職員同士のコミュニケーションが円滑に行われており，好感。
	財務会計及び庶務管理システムを活用した監査の実施	監査事務局監査第２課	「財務会計システム」「庶務管理システム」を監査事務に活用するため関係課と協議を重ね，全庁検索，照会機能の付与を受けることが可能となったことで監査対象課に資料準備の事務負担を与えず，円滑で迅速な監査事務が行えるようになった。	○事務軽減につながり，全所属に喜ばれたのではないか。 ○効率的な監査事務に役立てて欲しい。